

アドバイザー 佐藤 太

環境コースでは、「将来の世代に残すべき環境を傷つけず資源を減らさずに（そしてゴミを残さずに）、世界の皆が豊かに生きるためににはどうすれば良いのか」というとても大きな課題を扱いました。今回の会議の中では、時間的な制約もあって参加青年が自分たちなりの答えをしっかりと出すことは難しかったと思いますが、それでも全体会での発表は、コースでの学びがうまくまとめられていました。

これからは、各自がそれぞれの場所で、この大きな課題をいつも心に留めて生活してほしいと思います。それぞれ、この課題に関わる方法や度合いは違うでしょう。日々の生活の小さな行動を通して関わる人、研究者として深く掘り下げる人、起業家や会社員としてビジネスを通して解決を目指す人、地域や国、国際社会での政治を動かすことになる人もいるかもしれません。大きな課題を心に留めて、自分の立場から行動する。“Think Globally, Act Locally!”を是非実践してください。

今年の環境コース参加者の発言でこれまでとは違う

と感じたことは、「格差」の問題に触れる人がとても多かったことです。事前課題への回答にもそれが見られました。私たちのディスカッションと時を同じくして、ニューヨークの国連本部でも「持続可能な開発サミット」が開催され、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この行動計画の中でも「格差の解消」は大きな課題として取り上げられています。

グローバル化した世界の中で持続可能性が人類共通の課題であるのと同じように、国内の格差も国家間の格差もまたグローバル化の中に大きな原因があり、その解決には国の利害を超えた地球的な視点と新しい発想が必要です。

参加青年の皆さんのお祈りします。ボランティアとしてコースの企画から運営、参加者のケアまでされた実行委員の皆さんには、心からの謝意を表します。この貴重な機会をお与え下さった内閣府と関係各位にもお礼申し上げます。

コーディネーター 加藤 瑛莉加

ディスカッションは三日に分けて行われました。会議初日、環境コースのディスカッションは、アイスブレーキングから始まりました。参加者たちの表情には、最初はやや緊張の色が見られました。しかし、体を動かしながら、お互いを次々に紹介し合うアクティビティーによって、次第に笑顔が増え、参加者の緊張はほぐれたようでした。この後は、事前課題に基づいた共有と意見交換に、ディスカッションのねらいが絞られました。青年自身の「豊かさ」とそれそれが住む国にとっての「豊かさ」を満たす条件は何か、共有を行いました。また、持続可能な社会を目指す上で、各の環境と経済的豊かさが調和していない具体的な事例を挙げることで、それぞれの国の状況、事情を理解し合いました。

翌日は課題別視察を行いました。二日目のディスカッションのねらいは、前日の共有、意見交換を元に、深い議論を行うことです。NPO法人トージバの代表

である神澤氏の講話を聞き、環境に寄り添った暮らしについて理解を深めました。そして、初日の佐藤アドバイザーによる講義、エコロジカル・フットプリントという概念を元に、真に持続可能な社会を作っていくためのアイデアを皆で話し合いました。青年らしい柔軟なアイデアが次々と出てき、青年たちは生き生きとそれらのアイデアを共有していました。その後、持続可能社会を目指す上で、青年たちがそれぞれの国、あるいは国同士で協力して実行できる具体的なアイデアについて議論し、発表してもらいました。最終日のプレゼンテーションでは、ディスカッションで得た成果を十分に發揮していました。

これらの有意義なディスカッションを通じて、青年たちは持続可能社会を作るために自分たちが社会に対し、どのような貢献をしたらよいのか役割を認識しました。また、ディスカッションを通じて青年たちは相互理解を深めたと思います。

日本参加青年 カンボジア派遣団 馬渕 佑香

国際青年交流会議に参加して学んだことは、まず、人の意見を真摯に聞き、柔軟に受け入れる姿勢が何よりも大切だということ、そして様々なバックグラウンドを持つ人々の話によって自分の視野が広がったように、自分もまた誰かの考えに影響を及ぼす存在であるということです。

ディスカッションで、「日本ではどう?」と聞かれることは度々あり、日本について知っておく必要性を痛感しました。参加青年の国の事情についても知らないことばかりで、自分の知る世界は本当に狭かったのだと改めて感じ、いつも新鮮な気持ちで話合いに参加

することができました。

環境グループでは、持続可能な発展のための取組について、様々な視点から意見が出ました。参加青年それぞれの国の現状や具体的な取組などを紹介してもらい、また日本という先進国の現状も説明し、多角的にアプローチすることができました。同じ問題意識のもと柔軟に意見を組み合わせ、より良いアイデアを創造する機会は非常に貴重なもので、国際青年交流会議でなければ経験できなかつたと思います。

この会議に参加し、多くの国の人々と楽しく交流できたことは、とても嬉しく、誇りに思います。



ドミニカ共和国参加青年 アントニー・マヌエル・テハダ・オルティス

私は環境コースの参加青年として、今回の経験が別の観点から人生を見るということを教えてくれたと確信しています。これまでの私は、環境に悪影響を与えるに豊かな生活を実現する方法についてまったく関心はありませんでしたが、今では望ましい豊かな生活と環境保護とのバランスを取ることが、自身にとっての重要課題の一つになりました。

最初に環境コースの各国は、自国の環境に現在影響を与えていたる課題について知る機会がありました。これはディスカッション・コース中、もっとも興味深い部分の一つでした。これらの課題にどう取り組むべきか、どう解決していくかを学ぶことができたからです。中でも重要なのは、世界の環境状況を明確に理解すること、周囲の人々を教育することです。自国でのコミュニケーションの手段を持っている私たちはディスカッションでの学びを人々にすべて伝え、アクションを起こし、成果を挙げていかなければなりません。

ディスカッションの最後に、私たちは豊かで持続可能な社会を実現するために必要な視点と実行可能な取組について、アイディアを交換する場を持ちました。これらの課題に取り組みつつ、自国で実行可能な解決策も含めたアクションプランを考えました。基本的な考え方は、実現可能なプランであることで経済的豊かさと持続可能な社会のバランスに留意すべきであるということです。

このディスカッションを通じて、私はより良い人生のために人がすべきこと、そのためにどう備えるべきかについて真剣に考えさせられました。その結果、周囲の人々、とりわけ自國の人々を教育し、この有意義なディスカッションで学んだことをあますことなく伝え、豊かな社会を実現しようという意欲が高まりました。すべてを実現するための第一歩は教育である、とまさに確信しています。なぜなら教育なくしては、私たちの望む持続可能な社会を実現するための正しい選択の方法が分からぬからです。

ディスカッションは、環境テーマについての他国の取組を知る機会でした。この経験が人生に対する私たちの考え方を変えてくれると確信しています。各国の多様な取組や、この重要な社会課題に対し、各国が様々な解決策をどのように探っているかを知ることは、非常に興味深いです。

間違いなく私にとって何物にも代えがたい機会でした。「持続可能な」社会について学んだすべてのことを糧にし、アクションと解決策を自國に持ち帰り、自國を経済的に豊かな国へと導いていくつもりです。青年リーダーとしての私の主な目的は、自らの知識を共有し、アクションを起こすことです。ジャクリーン・ノボグラツの言葉にもあるように、「持続可能な世界とは、すべての人々の繁栄のために協働すること」なのです。